

一

問一 a || カタヨ b || ヒボウ c || 採択 d || 浸（滲）透 e || サカノボ

f || 配慮 g || ホウセツ h || 發揮 i || ソガイ j || 促進

問二 情報通信技術の革新で知的活動や効率は向上したが、同時に私たちの心身は常に外部と接続可能な緊張状態となり、ネット上での誹謗中傷などの問題もあって疲弊しているから。（八〇字）

問三 前者は福祉の対象を保護や救済が必要な社会的弱者と考えているが、後者は福祉の対象を能動的な主体として捉え、個人としての充足感や自律性を尊重し、一人一人が心身ともに豊かに生きられるような社会を実現すべきだと考えている。（一〇七字）

問四 A || イ B || ウ C || ア D || ウ

問五 個人の心身を豊かにして社会貢献を目指す個人主義的な視点のみならず、他者との関係性・共同性を築いてゆく中で価値を創出する集産主義的な視点も備えて、不特定多数の人々の間や公共の場にある人々の心身を豊かな状態に保つこと。（一〇七字）

問六 種々の領域にまたがるウェルビーイングの総体を捉えるために、その意味や価値を明瞭にすること。（四五字）

二

問一 ア||体調が悪いのを我慢して来たのだよ。あなたのことが気がかりなので

イ||このようにあなたの所まで出歩いているよ、と世間に見られるのも外聞が悪いだろう

ウ||私が喪服の仕立てを拒否したことに夫はいつそう不機嫌な様子で、全く伝言も送ってこない

問二 快復した後も連絡すらよこさない夫への不満を隠して平静を装いつつ、夜は外を通る車の音がするたびに夫の来訪かと期待しては裏切られて落胆し、熟睡することもできずむなしく夜明けを迎え、夫の来訪が無かったことを実感して、期待があった分、いつそう情けない気持ちになっている。

問三 (A) ||夜の間は松にも露がかかるように、私も夫が来訪する望みにはかない命を懸けつつ、待ちながら涙に濡れていたのだよ。でも夫の訪れがないまま夜が明けると、露がはかなく消えるように、私もはかない命が消え失せるほどのつらい思いをすることだ

(B) ||鶯も私と同様に終わりのない物思いに耽っているのだろうか。六月になったのに鶯の鳴き声は絶えることがなく、私も夫の来訪のなさに声を上げて泣いているよ

三

問一 a 〓ますます b 〓しかるのちに c 〓なき

問二 荀子の書を以て大醇として小疵ありと為す。

問三 まっすぐな木が道具の助力がなくともまっすぐなのは、その木の本来の性質がまっすぐだからだ。

問四 そもそも、もし荀子が人間の本性に善と悪とがあることを分かっていたら、木の本性にまっすぐなものと曲がったものがあることも分かっていたはずだ。

問五 豈に真に性を知らざらんや。

問六 余因りて以て荀子の世大いに乱れ、民胥泯禁するに遭ひ、感激して此を出だすを悲しむなり。

問七 本当は人間の性質に善も悪も存在すると理解しつつ、乱世での人心の混乱を経験しての発奮ゆえに、後世で批判されがちな性悪説を提唱して礼法による教化を主張した人物であり、礼を重んじ、儒学の伝統思想を厳正に守りながら探求を深め、歴史上の種々の事象の成否の原因をも明確に分析した優れた学者である、と評価している。（一五〇字）